

思考・行動特性分析 解説 タイプ C： 思考＝短期成果重視・主体性優先 行動＝迅速瞬発傾向

周りの人々を大切に思い、仲間を作り、その仲間と共に前向きな事柄に取り組む事を好む思考特性が優勢です。自分がやる事については、卓越性を求め正確さを重視する「プロフェッショナル志向」を強く持つ特徴があります。効率や能率意識が高く、また、一人で取組むよりも組織化し、多くの人材や機能を活用して目標を達成しようとします。やるからには、成功しなければならないという成果指向、結果重視の思考が現在の特徴です。目標設定や行動計画の立案能力に優れた能力を発揮し、迅速に成果につなげようとエネルギーに行動します。したがって、あらゆる面で、決断力があり、行動も迅速です。他の人にも迅速であることを求めます。自分を批判する者や、否定する者に対しては、それを好まず、時には、敵意や反発心をあらわにします。革新的、先進的なものを好む傾向があり、逆に、保守的、平凡だと思えるものを好みません。

優れている面

極めて高い行動能力を発揮し、また、思考の面では、結果を追求する強い意欲が働くのも現在のあなたの特徴です。勤勉で、思慮深く、おおむね冷静さを維持し物事を計画的且つ能率的に行おうとする面があります。人材を育成したり、組織を効率的にまとめ上げたりするリーダーシップの力が発揮され、人々に活気や意欲を与える力が機能しています。元来優れている、説得力、交渉力が発揮され、対人関係において、新しい事や困難な事を粘り強く精力的に解決する事が出来ます。幅広い交友関係を有し、人脈を作り、それらの人脈を活用し、広範囲に物事を行う活動的な面があります。知識や情報を多く持っています。色々なことを理解し、知識を活用する事に価値をおく意識を強く持っています。

注意すべき面

実績や結果を重要視する事が行き過ぎると、その為には、手段を選ばない荒っぽさが表れます。結果を求めすぎるあまり、一定の成果を得るまでは無理をしてでも結果を追い求めるため、健康を害したり、周りの反感を買うといったようなまったく効果的でない犠牲を払ってしまうことをいとわない強引な面があります。失敗する事や過ちを犯す自分を許容する事が出来ず、思い通りにならないことや、限界を感じるなど過剰なストレスを感じてしまいかねない面があります。一旦マイナスに加速した意識は暴走的、自暴自棄になりがちです。自分の行動スタイルや思考パターンを他の人々にも強要したり、指示し、相手が受け入れられない場合、強烈に相手を責めたり、否定したりする自己中心的な面が表れやすいのも、現在のあなたの思考行動特性の一面です。

思考傾向分析

外面、自信に満ちた面を見せる半面、内心は、人からの良い評価に囚われる面があります。周りから、「うまく行っている人物として見られなければならない。」という思いが潜在意識にあるようです。したがって、人からの優劣や良否の評価対象となる物質的結果や実績に強い関心を持ちます。向上心と功名心から来る上昇志向が強く、また、他者と比較し、自分が優位であることを求めます。時間を効率的に活用する事を重視します。「時は、金成り」という価値観は、より早くより正確に物事を成し遂げようとするあなたの行動スタイルに強い影響を与えます。単独で行動することよりも、チームや組織で活動する事を好ましいと感じ、常に、仲間や組織を作り、それらの人々を自分の能力で導く事にやりがいや意義を感じます。

行動傾向分析

あらゆる事に迅速さと正確さを求めます。せっかちですが、一方で冷静な観察能力も強く現れます。時には、冷静さが、内心の人懐っこさとは裏腹の、周りとの距離を置くクールな傍観的なイメージにもなります。自己分析力や、状況判断の能力が高いため、合理的で無駄のない行動を実践しますが、それは、反面、冷たい行動とも受け取られかねない面があります。目標達成や成果指向が、時には、強引な面が強調され、誤解を招きかねない一面です。一旦決心し、勝算があると確信した場合には、成功のために全身全霊で取組むエネルギーな行動力の持ち主であり、但し、それが、行きすぎた面ともなり、あらゆる犠牲を払ってでも、成果を創り出そうとする為、無理な事を行ったり、摩擦や、犠牲をいとわない行動となり、周りとの調和を欠き、反発を招く場合もあります。

更なる自己活用のための提言

現在のあなたは、自分には成果や実績が必要で、それが無いと成功者ではないといったような潜在的「渴望」の思い込みが働きやすく、結果として見た目の目標達成や実績拡大という形式主義、実績優先に自分を駆り立ててしまいがちです。あなたが、そのパワフルで行動的な資質を更に生かすためには、プロセスやステップを意識する事が必要です。プロセス、即ち、最終的なゴール以前に訪れるあらゆる前向きな兆候や、成功の過程を評価し、自分自身が、眼に見える以前の事柄にまで、意識を向ける事で、必要以上に、急ぐ事もなく、常に適切な時間とエネルギーを投じて、今以上の成果を、今より遥かに低いストレスの下で創り出す事が可能となるでしょう。成果を上げていないからといって、自分を低く見るのではなく、自分は成果を上げられる人であるという自己信頼と誇りへ意識を向けると良いでしょう。